第４学年　道徳　学習指導案

１　**主題名**　　すなおになって　（Ａ－２　正直，誠実
・・・過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること）

２　**教材名**　　「なしの実－アンリ＝ファーブル」

３　**主題設定の理由**

（１）ねらいとする価値について

学習指導要領解説「特別の教科　道徳編」で，内容項目の指導の要点には，「正直，誠実」について以下のように記述されている。

指導に当たっては，正直であるからこそ，明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し，この段階の活動的な特徴を生かしながら，児童それぞれが元気よく生活できるようにしていくことが望まれる。

児童が，他者にうそを言ったり，ごまかしたりすることは，自分自身をも偽ることにつながることに気付き，正直であることの快適さを自覚すること，また，過ちを犯したときは素直に反省し，そのことを正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを育めるように指導する必要がある。その前提としては，教師と児童の信頼関係，児童同士の信頼関係を築くことが必要であり，また，正直・誠実の価値を児童が認識して，学校生活の中で実感をもつ機会が必要である。

（２）児童の実態

友達との関わりにトラブルが付き物である。本学級でも様々なトラブルが起こってきた。ときには，学校外のことなど，状況を確認する際に明確になり切らない場合もある。他の友達の見たことと本人の認識がずれている場合，したことを認められない，ごまかしている，意識していないなど，自分の過ちを素直に認められない児童もいる。トラブルを児童の成長の材料として活かすために，児童がお互いに自分の過ちを認め，自分の言動を素直に振り返る態度が必要となる。担任としては，児童の認識を尊重するとともに，児童の中にある正直・誠実になることへの障壁を乗り越えるきっかけになる道徳の授業を行う必要がある。

４月に行った教材「正直 50 円分」の授業では，たけしとひろしが，たこ焼き屋のおっちゃんに多かった 50 円分のおつりを正直に返したところ，50 円分のたこ焼き（目に見える見返り）をもらい，正直の大切さを理解する話から，正直は安心につながることを学び，「人の気持ちを考えて，損しても得しても正直に言うこと」の大切さをまとめとした。今回の「なしの実」では，アンリがなしの実を取ったことを父親に正直に言ったことが，どのような意味があったのかは直接的に書かれていない。目には見えずとも，正直に言うことの大切さを理解させていきたい。

（３）教材について

おなかをすかせてせがむ弟のために，隣の家のなしを盗んでしまうアンリ。盗むことはだめだとわかっていても，無邪気な弟・フレデリックの言葉に促され，とうとうなしの実を取ってしまう。大喜びの弟のそばで，アンリの気持ちはなんとなくすっきりしない。自分たちのしたことが露見しないかとびくびくしていたアンリは，夜になって父親に呼び出される。怖い顔をして待っていた父親は，状況を察すると，ゆっくり諭すように話し始める。アンリは父親の思いを知り，話を聞き終わらないうちに，自分のしたことを正直に話し始めた。そんなアンリの手を優しく包み，いっしょに謝りに行こうと諭す父。アンリにとって，この日のことは一生忘れることができないこととなった。

児童には，自分の過ちを素直に認めることの難しさと向き合い，正直・誠実に行動したいという願いに向けて進んでいける実践意欲や態度を育ててほしい。

４　指導の構想

ねらいに迫るために３つの指導を構想した。１つ目は，教師の経験談から，過ちを素直に認め，正直に言うことの大切さと難しさを確認する。自分ならどうするかを問い，正直に言えるかどうかを考え，正直，誠実に行動することの大切さを考える必要感をもつように導入を行う。

２つ目は，自分の意見と友達の意見を比較検討するためのワークシートの工夫である。自分の意見と友達の意見を並べて書くことのできる枠を設ける。そして，互いに「なるほど」と思った意見はメモし合い，意見の多様性に気付く機会としたい。書くことに困難がある児童については，誰の意見がよいと感じたのかをメモするようにアドバイスする。

３つ目は，正直に言うことを迷っている弟に，自分だったらどのような言葉を掛けるかを考えることである。発表では，ペア児童や教師（正直に言うことを迷っている弟役）相手にロールプレイをする。その中で，自分の中にある大切にしたいことを自分の言葉で語り出すことをねらう。

以上の３つの指導により，考え議論する道徳における主体的・対話的で深い学びを実現したい。

５　本時の計画

（１）　ねらい

正直，誠実について，自分の過ちに葛藤するアンリの姿を通して，正直になると自分の気持ちも周りの人の気持ちも大切にできることに気付き，明るく堂々と生活するための実践意欲と態度を育てる。

（２）　展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価規準　〇留意点
１　教師の経験を基に，自分なら正直に言えるか考える	Ｔ１　正直に言った方がいいと思うのに，言えないままで，すっきりしていないことはありませんか。私にはあります。 （教師の経験談） Ｃ１　先生にも言えなかったことがあるんだ。 Ｃ２　正直に言えればよかったのにね。 Ｔ２　してはいけないことをしてしまったとき，それを正直に言うことができますか。	〇教師の経験談を通して，自分の過ちを素直に認め，正直に言うことの大切さと難しさを意識する。 〇大切なことは分かるが，実際にできるかどうかは自信がない人もいることを確認する。

（５分）	Ｃ３　何だか自信ないな。 Ｃ４　「・・・・(無言)」 Ｔ３　正直に言った方がいいと思うのに，主人公が迷っている話があります。読みますね。	
２　教材「なしの実を読み，アンリがなぜ言えなかったかのを考える ３　アンリがなぜ正直に言ったのかを考える （20 分）	Ｔ４　ビクビクしているアンリは，どんなことを考えているだろうか。 Ｃ５　お父さんに怒られたらどうしよう。 Ｃ６　なしの実なんて，とらなきゃよかった。 Ｃ７　嘘をついていることに耐えられない。 学習課題 Ｔ５　アンリは，なぜ正直に言ったのか。 Ｃ８　もうこれ以上，なしの実を取ったことを，隠しているのは辛いし苦しいから。 Ｃ９　自分も弟もうそつきになるし，このままではいけないと思ったから。 Ｃ10　隣の家の人も，嫌な思いをしているから，謝らなくてはいけないと思ったから。 Ｃ11　これ以上，お父さんやお母さんを悲しませたくないと思ったから。 Ｔ６　アンリが正直に言ったのは，何を大切にしたからですか？ Ｃ12　自分の気持ち。 Ｃ13　親や兄弟，隣の人の気持ち。 まとめ　自分の気持ちも，周りの人の気持ちも大切にしたいと思ったから。	○教材「なしの実」を読み聞かせ，あらすじを確認する。 ○自分なりの理由を考え，友達の理由と比較するためのワークシートを用いる。 ○正直に言ったことの理由を伝え合い，自分の考えと友達の考えを比較しながら，多面的に捉える。
４　アンリの立場で弟にどのように言葉を掛けるかを考え，ロールプレイをする （15分）	Ｔ７　弟が正直に言うのを迷っています。あなたがアンリなら，何と言葉を掛けますか。 Ｃ14　正直に言うと，スッキリするよ。言わずにいたら，ずっとモヤモヤするから，勇気を出して言った方がいいよ。 Ｃ15　嘘をついたままでいたら，お父さんとお母さんが悲しむよ。正直に言えれば，きっと許してくれると思うよ。 Ｃ16　やったことが良くないと思うなら，正直に言って謝った方がいいよ。自分自身も自分を信じてくれる人も裏切っちゃダメだよ。	○弟に伝える言葉には，アンリを通して，児童自身が大切にしたい価値が含まれる。 ■友達の言葉を聞き，その言葉の中に含まれている価値に気付き，自分の考えと照らし合わせて考えている。 （ワークシート・観察）

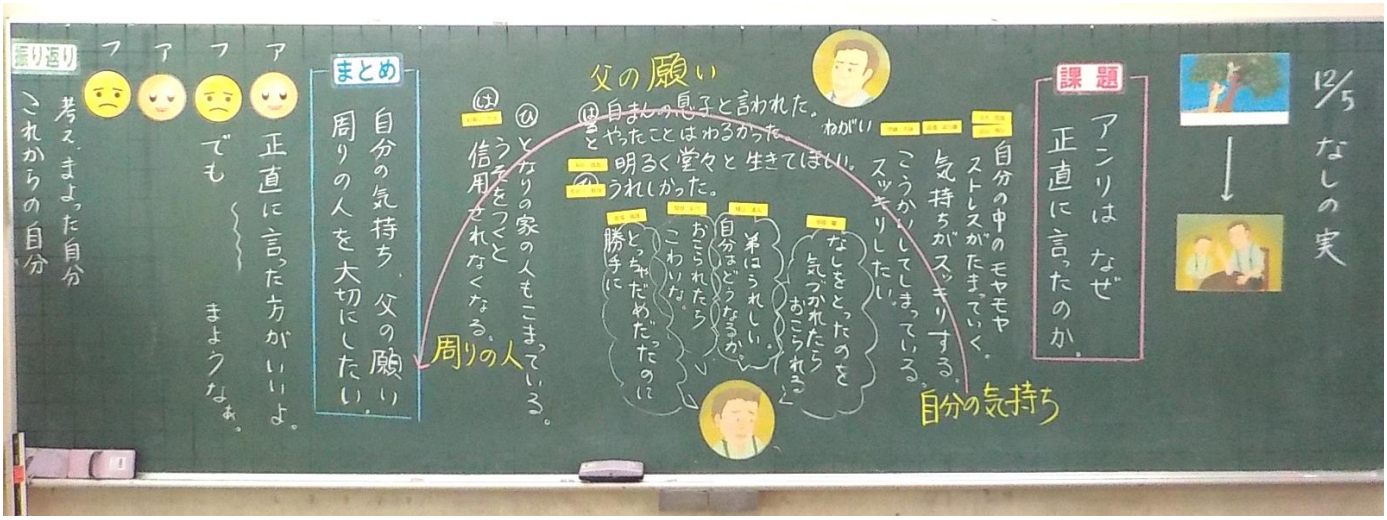
5　振り返りを行う （５分）	Ｔ９　学習の振り返りをしましょう。 Ｃ17　自分の過ちを正直に言うことは大切だけれど，勇気を出せるのか迷いました。勇気を出せなければ，一生後悔するかもしれないので，正直に言えるようになりたいです。 Ｃ18　正直に言うことは大切だけれど，できるか迷いました。自分のことだけでなく，他の人のことを考えると悲しませたくないから，嘘をついたままにしないようにします。 Ｃ19　自分も正直に言うのが苦手だけれど，嘘をつき続けることは，大切な人を裏切ることになるから，よくないことをしてしまったら，絶対に正直に言います。	○振り返りの視点を示す。 考え，迷った自分 これからの自分 ■振り返りの視点を活用して，自分の考えを書いている。 （ワークシート）

（３）評価

正直になることの大切さについて多面的・多角的に考え，これからの生活で明るく堂々と生きようとする態度と意欲を高めている。

（観察）（ワークシート）

６　最終版書



参考文献・資料

光村図書　どうとく４　きみがいちばんひかるとき　P112～P115　なしの実－アンリ＝ファーブル